

広域ゴミ処理候補地  
(稲枝・石寺地先)  
「不敵格」と判断

曾根沼の埋め立て地＝「軟弱地盤」はじめから分っていたこと

# 住民不在の計画 根本から反省を

住民に隠して進めてきた大型事業がまたひとつ「中断」に追い込まれたことが明らかになりました。  
7億円以上を投入する「甲良ふるさと交流村」計画も、本当に甲良町民にとって必要から「本当に農業振興に役立つのか」根本から全町民的論議が切実に求められています。

日本共産党彦根市議団の報告によれば、30日開かれた彦根市議会全員協議会で、獅山彦根市長は、彦根市・犬上郡3町・愛荘町が参加する「ゴミ処理広域化計画」について、地質調査の結果を受け、稲枝・石寺地先の候補地は適格性を欠き、関係首長・湖東振興局長合意で「当該地での建設を断念する」と発表したことです。

その「断念」の理由を7つあげています。要約すると、石寺の候補地は巨大な施設を支える岩盤に届くまで60メートル以上となり、軟弱地盤であり、地震時には「液化化」が避けられない。その補強工事に推定で、22億

5日から12日までの予定で6月議会が始まります。12日に予定の一般質問の通告は西澤議員と金澤議員のみ。西澤議員の一般質問の要旨は次のとおりです。

## 「ゴミ処理の基本を行政の責任で」

- 1、燃えるゴミの週2回収集の実現を。集回は甲良町だけ。
- 2、ゴミステーション増設の要望に行政の責任で対応を。
- 3、家庭での焼却禁止の指導を徹底すること。町有地の清掃に責任をもつこと。

## 「ゴミ処理広域化」

- 1、「広域化」の総括を行ない、自律した町独自の責任を明確に。
- 2、地質調査の結果はどのようなものか。
- 3、軟弱地に巨大施設を強行するののか。
- 4、財政規模の大筋の積算をしているか。

## 「ふるさと交流村構想について」

- 1、「せせらぎのまちづくり・・・」の反省が必要。町民の自立、所得の向上が目標に定まっていたか。乱脈な同和行政の後始末が課題にあげられていたか
  - 2、「赤字になるようなことはしない」との根拠はどのようなものか。
- いかなる経営形態になろうとも町の投資回収責任は免れることはないのでは。

円もの増額となる。その増額分を国が交付金を出さない可能性があり、各市町とも財源確保が困難となる。

## 住民と行政の真の協力めざして

西澤議員の談話

今回の「不適格地判断」は当初から分っていたことで、住民に隠して進めてきた行政は根本からの反省が求められると思います。私たちは「ゴミ処理広域化計画」が発覚して以来、「当地は軟弱地盤であり、彦根ナシの生産地での危険な計画はやめるべき」「ばく大な費用負担となる」「住民に隠さず公開せよ」と繰り返し要請「ゴミ問題の講演会など取り組んできました。」「ゴミ問題は地球温暖化など、依然として切実な課題です。製造者責任の確立をはじめ、今日の「ゴミ問題の根本的な解決を見据えながら住民と行政が協力して「ゴミ問題」に取り組む前提はなんと言っても「公開」の原則を貫くことです。日本共産党は住民のみならずと住民本位の解決のため引きつづき努力する決意です。」

いかなる収益をみこんでいるのか。「経営にタッチしない」とはどのような意味か  
収支見通しをどのように考えているのか

- この事業が「農業振興」「地域振興」と単純に結びつつかの。その前提が成り立たないと考えるが。
- 3、「農業の直接支援」に手をつけた矢先。成果は未知数、まだ先。なのに「埋め立て」「設計・建設」は凍結を。
  - 4、町民意向調査を実施するべきだが。
  - 5、なぜ、「コンビニ誘致に重きを置く」のか。防災協定・日常管理、特産品の販売を「コンビニ」に託すのか。
  - 6、(仮称)「推進委員会」の類の設置を考えているか。その場合メンバーの構成等は。

## 6月議会 質問通告 たった2人!

一般質問の通告をしたのは西澤議員と金澤議員だけ。「議員は、まじめに仕事しているのか!」と町民から怒りの声があがるのではないのでしょうか。

## 甲良民報

2008年6月1日 383号  
発行責任：日本共産党甲良町支部  
代表：西澤伸明 甲良町在士463  
Tel. Fax 38-4949